

富山県南砺市福野夜高行燈リヨン市遠征事業を終えて

平成24年4月

富山県南砺市

福野夜高行燈リヨン市遠征団

庶務責任者 西 賢一郎

平成23年2月下旬に非公式ながらフランス共和国リヨン市長より、160年の歴史ある「光の祭典」に初めて海外から「可動式光のオブジェ(フロート)」を招きたいと日本大手企業のプロダクションへ打診があり、アジアに的を絞り中国、ベトナム、日本からそれぞれ候補が挙がりました。

日本からはプロダクションの推薦で富山県南砺市(福野地域)に江戸時代より伝わり360年の伝統を誇る福野夜高行燈が選考されました。そんな中で3月11日に未曾有の大震災が東日本を襲い、まさに日本の再建と安全を願うという思いから、福野夜高行燈が正式に指名され、福野夜高祭連絡協議会に要請があり、大行燈3本、小行燈2本の出演依頼を受け、60名を派遣したこの事業ですが、本年2月18日にリヨン市遠征を終えた参加四町5本の行燈が海を渡り4カ月振りにそれぞれの町に還って来たことで、やっとこの事業が終わったのかなと胸を撫で下ろしています。

思えば連絡の行き違いがあったのかもしれませんが、昨年4月下旬に全て「招待」という事で福野夜高行燈のリヨン市遠征の話が提示され、「それならフランスに行こう」という話から始まったこの事業ですが、初の海外遠征は正に前途多難の連続でした。

同年7月13日にリヨン市長より招待状が届いたものの、資金、輸送費、バッテリー等の様々な問題が押し寄せて来てなかなか前に進めない日々でありました。そんな手さぐり状態の中で8月末より「見切り発車」で行燈の製作が始められ、第1回の実行委員会では目標700万円の協賛金を募ることが決議されたことでやっと一歩前に進むことができました。

協賛金では、現富山県議会議長である山辺 美嗣会長が在京の大手企業等を回られ大変なご苦勞をされました。心より敬意を表したいと思います。

また、国際交流基金、笹川日仏財団、富山県、南砺市からは補助金として、そして、在フランス日本国大使館が共催事業として取り組んで戴くと共に資金援助をして戴いたことが、この事業が成功に向けて一気に突き進んで行けた要因であると思います。

フランス遠征については、12月6日深夜零時の出発ではありませんでしたが、大勢の方々のお見送りには驚きと共に深く感謝申し上げます。

また、現地では本番の12月8日から11日までの4日間は奇跡的な好天に恵まれ、リヨンのボランティア団体の協力により連日90人程の担ぎ手が参加してくれたことで、団員とリヨン市民が1つとなったこと、そして、リヨン日本人会の皆様が連日、日本食の差し入れや通訳としてボランティアをしていただいたことで、団員のストレスが激減し、結果、一人の怪我もなく、事故もなく、体調を崩すこともなく帰って来れたのではないかと考えています。



最後に、「この遠征がリヨン市民やリヨン市に集まった世界中の多くの方々に大きな印象を与え、そして、行燈練り回しによる交流を通じ、日本が元気に頑張っている姿と、復興への願いを世界に向けてアピールすることができた」と胸を張って言える事に誇りを感じて、終わりにしたいと思います。

団員の皆さん、そしてこの事業に携わって戴いた全ての方々に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

